

# 知名人

## 第2回

### 古村英次郎さん

# Interview



自分の子どもたちが「働きたい」って言うってくれるような観光協会を作りたいと思ってるんです。

名古屋で出会ったえらぶの縁で今の僕がいます。人生どこに何があるかわかりません。

— 略歴を教えてください

両親が40年前にUターンで帰ってきて僕が生まれました。父は余多のクボタで働いていました。僕はもともと体育の先生になりたくて、免許も持ってるんです。でも、沖高に3週間教育実習で来た時に、「向いてない」と気がきました(だけども笑)。

大学2年の時に、オーストラリアのワーキングホリデーから帰ってきた人と一緒に酒

飲むことになって。話を聞いてたら「面白そうやな」って思っちゃったんです。その後

は、オーストラリアに行くために必死でバイトして、25万円くらい貯めました。

教員採用試験も受けず、就職活動もせず、卒業してすぐの3月12日にオーストラリアに行きました(笑)。

向こうでは日本食レストランで1年くらい皿洗いとウェ이터をしていました。その

後、ダイビングのインストラクターの資格を取って働いて、結局足かけ3年半くらいオーストラリアに住んでいました。

— 名古屋の旅行会社で働くことになったキッカケは？

オーストラリアに行くチケットを購入した旅行会社で、えらぶの住所を入力したら、スタッフに「ウチの社長もココの出身ですよ！」って言われて。本当に偶然です。チケットを取りに行ったら西

さん(西智彦氏・ジェイエスティー社長・和泊町出身)が「飯食いに行こうよ」って誘っ

てくれたのが最初です。

オーストラリアから帰って

きた後、鹿児島で出版社の飛び込み営業の仕事をやったんです(笑)。お金は貯まったんだけど心が痛んできて。ちょうどそんな時に一時的に島に帰ってきていた西さんが、僕の実家を訪ねて連絡をくれました。「今から鹿児島経由で名古屋に帰るんだけど、どこにいるの？」って。その時

ちようど営業で霧島をまわって(笑)、飛行機の乗り継ぎの合間に空港の「ロイヤル」でコーヒーを飲みながら「今の仕事面白いの？」って聞かれ

観光・観光と言うけれど、僕が見ているのは常に島の中です。

— 観光協会の役割って？

島に帰ってきて一発目に親父に「えらぶで観光では飯食えないぞ」って言われました。でもこのままいくと、20年後の島の人口は約1万人になる。

試算すると、今より36億円も島で回るお金が減ることになります。税金も減るし、商店

や飲食店が成り立たなくなる。道路もポロポロになるかもしれない。その人口が減った分の減収を補える1つのツールとして観光を使いたいんです。

観光で仕事を作ることができたら、若い子たちがこの分野で働いてくれるかもしれない

ました。即答できずにいる

と「じゃあアンタ名古屋に来

なさいよ」って言われて「わかりました行きます」って(笑)。全部えらぶの縁なんです。

— 観光協会に入ったキッカケは？

山田海陸航空で物流全般に携わらせてもらっていた時に事務局長の募集を見ました。当時、山田桂一郎さん(スイスで着地型観光を実践する観光カリスマ)のロングインタビューの記事([https://www.yamatoko.koro.jp/inbound\\_interview/4715/](https://www.yamatoko.koro.jp/inbound_interview/4715/))を読んだのが応募する決定的なキッカケでした。今もこれを追いかけているだけです。

い。見ているのは常に島の中

です。新しい雇用を作る動きの中の、僕は観光分野を担っているという意識です。

その方法として、安から悪からうの観光はやりたくない。島に来てくれる人を選ぶ

ためには、単価を上げないといけないし、単価を上げるためににはおもてなしを上げないといけない。島のものを使っ

て、島の生活を守るツーリズムが目標です。住んでる人たちが一番大事。僕たち島の住民が面白くない観光はやりたくないんです。

— 屋者に移転して1年ですな

まだ認知度は低いんですが、エラブココを「場」として楽しんでもらいたいです。そこから新しい出会いや仕事が生

まれたらいいなって。いつでも自由に遊びに来て下さい。

— 今後の計画はありますか？

マレーシアに住みたいなと思って(笑)。若い時もそうだったけど、あちこち行っても結局ここに帰ってくるかもです。実は、自分の子どもたちが大人になった時、父ちゃんのと島に住みたい、父ちゃんのとこで働きたいって言わせたら嬉しいのが、個人的なミッションだったりします(笑)。

【古村英次郎さん】昭和52年生。本部病院産まれ・和泊町古里出身。祖父は下平川小学校の教員を務めた古村安熊氏。沖永良部高校卒業後、中央大学(名古屋)入学。卒業後、オーストラリアに3年間滞在。現地でダイビングインストラクターを務める。その後名古屋の旅行会社・(株)ジェイエスティー(和泊町出身の西智彦氏が社長)で3年間働いたのち29歳で帰郷。山田海陸航空(株)に在籍後、平成25年に沖永良部島観光連盟(当時)事務局長に就任。以降、現・一般社団法人おきのえらぶ島観光協会事務局長として奔走中。

一般社団法人おきのえらぶ島観光協会  
平成23年に知名・和泊両町の観光協会を統合して設立。平成30年に「エラブココ」(旧下平川保育所跡地・屋者)に移転。充実したお土産販売コーナーとWi-Fiが利用できるコワーキングスペースを備え、利用者が急増中。